

第7日

令和7年6月18日（水）

午後1時零分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番中島秀樹議員の質問を許可します。12番中島秀樹議員。

（12番中島秀樹君登壇）

○12番（中島秀樹君） 議長に質問の許可を頂きました12番議員、中島秀樹でございます。今日はトリを務めます。お食事の後の眠い時間だと思うんですけども、皆様が眠くならないような質問に努めたいと思います。

昔話をさせていただきます。30年前の話です。私が会社員だった頃、厳しい上司がいました。私は融資係で企業の貸付けをしていまして、この日に貸付けをしてほしいということと言われまして、期日が目前に迫っております。稟議書といいまして、私の担当課長からずうっと印鑑をもらいまして、最後に支店長の印鑑をもらう。第一関門がその厳しい上司でした。その上司の口癖は、おまえはやれることを全てやったのかというのが口癖でした。もちろん、やっていませんとは言えませんが、やりましたと言って書類を出します。

そうしたら、いろんな質問が飛んできます。例えば、この製品が作られる工程であったり、その業界の動向、ライバル社の動向、それからこの資金の必要性とかそういったのを聞かれて、口籠もって全て答え切らずにいてもごもご言っていると、もう一度聞かれます。おまえはやれるべきことを全てやったのかと。私はやっていませんと正直に答えますと、なぜやらないんだと言ってよく怒られて、当時はその上司に書類を出すのが憂鬱で憂鬱でパワハラじゃないかと思っておりました。ですけども、今になって振り返りますと、よかったなあと思っています。

今日も準備をいたしましたけれども、やっぱり自分に言うのは、おまえはやれるべきことを全てやったのかということを自分に言って、コーヒーをガブ飲みしながら一生懸命に書類を作りました。

いろいろ資料を当たっているうちにこういった資料を見つけたので、ちょっと御披露したいと思います。

電子掲示板の上で疑問や悩みの質問と回答をするQ&Aサービスがございます。その中にこんなのがありました。これは架空の人っていいですか、本名が出ていけませんので匿名ですから、本当はこういった出どころがはっきりしていないものを御紹介するというのはどうなのかなと思いましたけれども、よく書かれているなあと、よい文章だなと思って、書かれていましたので御披露いたします。

女の方だと思います。2025年の1月に質問が出ています。

朝倉市、筑前町、大刀洗町で住むところに迷っています。県外在住のため、実際に現地へ見に行けない距離なので、知恵をお貸しください。夫、乳幼児2人の4人暮らしです。

夫の転勤で福岡県に移住することになりました。勤務地は朝倉市内なのですが、車で30分ほどの通勤は視野に入れています。その範囲内で物件を探すと、朝倉市、筑前町、大刀洗町が候補に挙がりました。

そこで質問なのですが、この3地域だと特にどこがお勧めでしょうか。町や人柄の印象など、ぜひ御意見をお聞かせください。

追伸として、ハザードマップ、子育て支援、治安のよさ、買物のしやすさなどに重点を置いています。子ども医療助成やごみ出しルールなどは3地域とも同じような印象を受けました。と質問があります。

これに対する回答がございます。これは質問席から、質問の中で混ぜて御披露したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(12番中島秀樹君降壇)

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員。

○12番（中島秀樹君） では、通告に従い質問をさせていただきます。

まずは前回の議会の一般質問の積み残しの分のシティプロモーションの部分を、市長施政方針の分を質問させていただきます。

まずはシティプロモーションを質問させていただきます。市長施政方針の中に、朝倉市のシティプロモーションにつきましては、本市の魅力を発信するため、朝倉市応援サポーターに登録いただいている皆さんを対象に朝倉市をより知っていただき、さらに愛着を持って活動していただけるよう体験ツアーを実施し、関係人口の創出、拡大に努めてまいりますとございます。

これに関連して質問をさせていただきます。

まず、応援サポーターについて質問をさせていただきます。応援サポーターは現在、何人いるのでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 応援サポーターの数でございますけれども、5月末現在で119件の登録がございます。内訳は、市内が27人、市外の方が81人、それから団体が11件でございます。市外の登録者のうち、約6割が県内の在住者となっております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 119という数字が出てまいりました。思ったよりも人数が少ないような気がします。その登録数で朝倉のよさを広めることができるのでしょうか。私はこれはバズっていないんじゃないかと思うんですけれども、増やす必要があるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 応援サポーター制度につきましては、昨年度、令和6年

度からスタートをしております、年間登録数100人を一応目指しておるところでございます。市からはイベントとか特産品、観光の情報といったものを配信しまして、朝倉市の魅力を知ってもらうことで関係人口を増やすといった取組でございます。

サポーターには市からの情報だけではなくて、市民の目線から感じた朝倉市の魅力を自身の得意な分野で幅広く広めていただくこととしております。活動は無償で何をどれぐらい発信してほしいというような依頼はしていないところでございます。これは登録のハードルを低くすることで、市に関わる人の裾野を広げるため登録者数を増やしたいというところもございます。

登録推進に関しましては、イベントでのチラシの配布、それから移住イベントとタイアップした周知、SNS、情報誌「コンネアサクラ」での周知、こういったことで40種類以上の方法でPRをしてきたところでございます。

また、名刺大の募集カードというのを作らせていただいて、議員の皆様にも配付の協力をお願いをさせていただいたところでございます。

先ほど議員が申されたように、今年度新たな取組としてサポーターを対象にしましたバスツアーというのを計画しております、朝倉の魅力を体感してもらうことと、情報発信の講義などを行ってサポーター同士が交流をしながら情報交換をしていただいて、今後の活動に生かしてもらうという狙いがございます。

議員が言われますように、登録数が多いとか少ないとかというのはいろいろ考え方があるとは思いますが、市に関心を持って愛着を持っていただいている方々でございまして、今後も様々なツールでPRに努めて登録数を増やしていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） いろいろな考え方があると思うんですけども、そのサポーター任せになっているわけですね。それに関しまして、特にコントロールはしていないということですね。そうしたら、サポーターは本当に朝倉市の魅力を言語化できているのでしょうか。私は担当課が情報提供をして、ある程度こういったことを発信してほしいということを、担当課が責任を持ってコントロールすべきだというふうな考え方なんですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 市がコントロールして情報を流すというような意見もございしますが、サポーターの皆様方はそれぞれ得意な分野というものもございしますので、市からはいろんな情報を流して、サポーターの皆様にはその得意な分野で広めていただく、サポーターの皆様にもいろいろ御関係のある方、つながっている方もいっぱいいらっしゃると思いますので、そういった広がり期待しているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） まず、シティプロモーションの考え方って朝倉市でこうあるべきだとか朝倉愛というのがあって、その中でフィールドがあって、その中で行政がやらないほうがいい部分とか、住民とか行政ができなかった部分、その範囲をまず明確化しないといけないと思っているんですよね。その中でサポーターといいますか、そういう人たちが活躍をしてもらったら行政にもいいし、サポーターも朝倉愛があつていいという形だと思うんです。

確かに行政のほうが、私が言うようにコントロールして朝倉市のこと、こういうことを発信してくださいと。これしか駄目ですよとか縛りをかけちゃうと、それは朝倉市にとっては都合がいいかもしれないけれど、サポーターにとっては窮屈。かといってサポーターだけが好き勝手なことを発信すると、それは朝倉市にとって本当にこのこういうことをしてほしいという領域に合っているのかなということになると思うんです。だから、私はサポーターと朝倉市は両思いの関係、両方とも好きじゃないといけないというふうに考えるんです。

だから、それをするためにはやはり行動を促すような情報提供が必要だと思うんですけれども、そのところは両思いになっていますかね。お互い片思いじゃないかなと、そういうふうに考えるんですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 登録の際にはそういった片思いの部分ももしかしたらあるのかもしれませんが、市としてはそれを両思いというふうに捉えておりまして、さらにそれを強めたいということで体験のバスツアーといったものを企画しながら、少しずつその愛を深めていきたいとか、強めていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、部長のほうから愛という言葉が出ましたけれど、やはりサポーターっていうのは朝倉愛がある人だと思うんですよね。愛があつたほうがいいと思いますけれども、朝倉愛があつて情報発信をサポーターがしてくださっていると思うんですが、私はあんまり見たことがないんですけれども、その情報発信のよい例と言いますか、ベストプラクティスみたいなのはありますでしょうか。あつたら御紹介ください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） サポーターの皆様には今それぞれ幅広い活動をしていただいているところなんですけれども、最適な事例と言いますか、好事例と言いますか、そういうものを一つだけ紹介をさせていただきます。

今年の2月に登録された東京在住の方がおられるんですけれども、その方は応援するからには身をもって体験をしたいということで、実際に朝倉市を訪れられて数日間滞在をしておられます。そういった数日かけて市内を周遊された中で、そのときにいろいろ撮影を

されてあって——景色でありますとか史跡でありますとか特産物、食事、そういったものを撮影されまして、四十数回にわたって御自身のInstagramに投稿をされてあるところでございます。

また、その投稿を見られた同じ東京在住の方だそうなんですけれども、その方の知り合いの方が偶然にも朝倉市にゆかりのある方だったということで、お二人は実際にその後、東京でお会いになられたということで話が盛り上がったと。それをきっかけに今年11月に本市で開催を予定しております藩校サミット、この藩校サミットのほうの開催時に再び来訪をされる予定というふうにお聞きしております。遠く離れたところでございますけれども、朝倉市のことを話題にしてもらってつながっていただいているというところに対しては大変うれしく思っているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしたら例えば偶発的といいますか、偶然で一つの波の輪が広がっていくように——広がっていくというのも、それはうまくいった例のベストプラクティスというふうにお聞きしたんですけれども、それだったらある程度の金銭的にこれくらい必要ですからということで、インフルエンサーの方にお金を渡して朝倉市の要するにフォロワー数を増やしてくださいとか、そういった形のほうが私は効率がいいんじゃないかと、効果的ではないかと思うんですが、その点についてはどうでしょうか。インフルエンサーを活用したほうが圧倒的に効果があるというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 議員おっしゃいますように、確かに経費をかけて発信力がありますインフルエンサーという方々に依頼をすれば一気に情報は拡散をしますし、時には先ほど言われましたようなバズるといったことがあるかもしれません。地域のイベントとか特産品などの情報につきましては、広く知られて多くの人の関心を引くことができるという一つの手段として考えられますけれども、一方で、それは一過性の可能性が高いというふうに思います。受けた側も一つの情報で終わってしまうかもしれません。

この制度は単に情報の受渡しというような制度ではございませんで、応援サポーターの魅力の発信とかアンバサダーからの朝倉愛とかいった、そういったものをつないでいくということに意義がございまして、その先の関係人口を生み出すというところについては必要な要素であるというふうに考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 部長も以前お読みになったということを言ってありましたけれども、この河井孝仁さんの本の中にも書いてありますけれども、いたずらに数だけ——フォロワーといいますか、その数を増やすことだけではなくて、創発的關係人口と言いますけれども、創発的というのは相乗効果の相乗に似たような言葉なんですけれども、それぞれ違った個性が団体になると、それぞれの個性からは想像できなかった力を発する創発的な関

係人口と言うんですが、そういったものを見つけていくのがシティプロモーションだというふうに言われていると思います。

行政の皆さんはお忙しいです。朝倉市のこと全てをやるというのは不可能じゃないかなと私は思いますので、ここの部分は要するに創発的な関係人口の方にやっていただこうという領域をきちっと明確化して、そして両思いの関係になればよいシティプロモーションができるというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、朝倉市の何を知っていただきたいというふうに部長としてはお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 何を知ってほしいかということでございます。朝倉のよさとか魅力を一言でというのはちょっと難しいかと思いますが、以前にもお話ししたかとは思いますが、やはりキーワードは水かなと思っております。朝倉市の歴史とか暮らしは水とともに発展してきたところがございますので、そういったものは強みだと思っていますし、今は「水もしたたるいいところ 朝倉」というブランドメッセージで統一して発信をしております。朝倉市制20周年のロゴにもこれを取り入れまして、1人でも多くの方が朝倉市の魅力を誇りに思って、まちに愛着を持っていただきたいという思いを込めているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 時間の関係があつてこの質問はこれで終わりますけれども、創発的な関係人口、創発的という言葉が非常にシンボリックですので、どうぞ記憶にとどめていただきますようお願いいたします。

次に参ります。久留米大学と連携した健康教育についてを質問させていただきます。

これも市長施政方針の中に、協定を締結している久留米大学と連携し、アンチエイジングなどの健康教育を計画してまいります。とございます。これにつきましては、どんな提携の効果があるのでしょうか。具体例とかがございましたら御紹介ください。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 市では、令和5年12月に久留米大学と包括的な連携協定を締結いたしました。連携する取組の一つとして、医療分野を掲げ、健康増進、予防医療の拡充、認知症予防、アンチエイジングなどの取組を両方で協力して実施することになりました。

初年度となる令和6年度におきましては、生活習慣病のための取組として、人間健康学部スポーツ医科学科とアンチエイジングを盛り込んだ運動指導講座を杷木地域で市民向けに5回実施いたしました。そこでは延べ104名の方に参加していただいております。3月には、ステップ運動指導者向けに研修会を実施して27名の方に参加いただきました。

また、健康づくり推進を対象とした研修会におきましては、生活習慣改善に関する栄養

学等の最新の知見を学ぶ研修会を4回実施しまして、延べ214名が参加されました。

さらに、自殺対策の取組として、民生委員の方を対象に、悩みを持つ人への関わりや見守りについてのゲートキーパー養成講座を開催しまして、精神科医師である久留米大学学長に講演いただき、132名の方に参加していただいております。

令和7年度につきましては、運動指導教室を今度は甘木地域で6回で行う予定としております。また、その他にも講演会等で講師の派遣をしていただく予定となっております。

また、大学との連携に関しましては、久留米大学以外にも福岡大学にはステップ運動を通して市民の健康づくりに協力いただいております、令和6年に開催しましたステップ&スロージョギング大会では、福岡大学スポーツ科学部の教授に講演いただいております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 言葉がちょっと気になりましたのでお尋ねします。アンチエイジングというのは成人病予防とどう違うんでしょうか。アンチエイジングとは何ですか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） アンチエイジングとは、意味としては抗老化——老化に抗うと書きますが、抗老化、アンチエイジング医学の意義は、加齢に伴う動脈硬化やがんのような加齢関連疾患の発症確率を下げ、健康寿命を目指すものとなっております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしたら、この方針にわざわざ書くということですから、アンチエイジングというのは朝倉市の医療費削減に結びつくんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 朝倉市の国民健康保険の医療費を分析しますと、医療費高騰の要因として、医療費が高額となる高年齢層の増加に加え、がん治療における先進医療費用や脳梗塞、精神疾患による長期入院費用、糖尿病などの生活習慣病における外来治療費などが大きな割合を占めております。

これらの医療費を削減していくためには、日頃からの運動習慣、食生活改善などによる生活習慣病予防、健診受診による疾病の早期発見が重要となります。このためには健診受診率の向上や保健指導の充実を図るとともに、大学との連携等により専門的で先進的な情報提供を受けながら、市民の健康づくりに対する知識の向上を推進していきたいと考えております。

久留米大学との連携事業につきましては、令和6年度から始まったところでございます。すぐに医療費削減の効果には結びつかないとは思いますが、健康意識と知識の向上は健康の保持増進に不可欠でありまして、この取組を継続していくことが重要かと考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 先ほどの女性の朝倉市・大刀洗町・筑前町、どこに住もうかなっというようなのも、朝倉市の強みの一つとして、久留米市に近いというのは朝倉市の強みだと私は考えております。久留米市は病院が多い医療のまちです。医療資源が豊富で医療体制が充実しております。都市別の人口10万人当たりの医師数につきましては、平成28年、10年前ぐらいなんですけれども、全国1位になっています。そういった久留米市に近いというのは朝倉市の強みだと思います。

私自身も目を悪くしまして12月議会は欠席をいたしましたけれども、久留米大学のほうで治療を受けたらすぐによくなりまして、本当に先進医療を気軽に受けられてよかったなというふうに思っています。私は、この久留米大学とのパイプというのは大事に守っていく、そしてそれが朝倉市の魅力を高めるというふうに考えております。このパイプを保つというのは、これはある意味トップセールスで市長と、学長とか理事長とかとの話になると思います。この点について市長はどのようにお考えか、御意見をお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 久留米大学には以前から、市の各種委員会など様々な分野において参画いただいております、市の発展のために御協力・御支援いただいております。

今回、包括連携協定を締結したことでより一層相互の連携・協力が進み、大学の持つ知的資源の活用、また人的交流の促進などにより、さらに市の発展に寄与すると考えます。

特に、健康増進や予防医療など医療分野においては、医学部や人間健康学部を持つ久留米大学との連携は非常に有効であり、今後もしっかり連携を図っていききたいと思います。

御案内のように、内村先生は精神科の先生ですけれども、非常に今いろんなところでいろんな人たちに講演をずうっとしていただいているという方でありまして、久留米大学の学生の年間を通した——その最終回に実は出席をいたしまして感想を言いなさいというようなことがあったんですけれども、極めて論理的で、そして学生が発表することに対して的確な指導をされていたということ等がございまして、議員が今おっしゃっていますように大変——久留米大学との特に医学部はそうかと思いますが、しっかりお互いに知識の相互認識もありますので、こういったことを生かしながらしっかりやっていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 内村先生には私の母も治療を受けておりまして主治医でいらっしやいましたので、私も何回かお話ししたことがあります。また、私の娘は明善高校へ行っていました、午睡っていいましてお昼寝の時間があるんです。これはたしか内村先生の御指導の下にやっていたと思います。立派な先生ですので、ぜひとも市長、パイプを強く、太く持っていただきまして、朝倉市の魅力の維持に努めていただきたいと思います。

では次に、けやき通りのことを述べさせていただきます。

通称けやき通りの東側への延伸のほか、国道322号道路事業に併せ云々ということで、けやき通りの東側への延伸ということで、わざわざけやき通りという名前が何で出ているんだろうなとか思ったんですけれども、けやき通りって朝倉市にとってはちょっと別格の通りなのかなあと私は思い入れがあります。けやき通りができたときはおしゃれな通りだなあとあって随分憧れたものでした。まず、このけやき通りっていつ計画されたんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 通称けやき通り、これは都市計画道路で言いますと大塚柿原線というふうに申しますけれども、この道路につきましては昭和29年度に計画されて、これまでも定期的に見直しの検証が行われてきた路線でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 当初はもっと何かきらびやかなイメージがありまして、スーパーのタイホーとかがあつて本当におしゃれな、甘木にもこんな道路ができたんだというふうに思ったんですが、当初はどんな計画だったんでしょうか。ただの道だったとは思えないんですけれども、教えてください。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） このけやき通りでございますが、主要な幹線道路でございます国道386号と並走しまして、北部市街地のほぼ中央を東西に連絡する補助幹線道路という位置づけでございます。沿線地域の大半が第1種住居地域でございまして、良好な住環境形成を図る上で歩車分離及び防災面での生活環境の向上に資する路線でございます。

また、市内に都市計画道路を計画されておりますけれども、外環状線と内環状線というものがございまして、このけやき通りは内環状線として活用した中心市街地の活用強化を目指すものとされております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） けやき通りがずうっとできて、私のイメージの中では、最初は物すごく華やかだったのが少しずつちょっと寂しくなってきたなあと。お店なんかも減ってきたなあとというイメージで、そして突然延伸ということで今回また表舞台に帰ってきたといったら変なんですけれど、話題に上るようになったなというイメージなんです。なぜ延伸できるようになったんでしょうか。ずうっと変わっていませんでしたよね。それがなぜ延伸できるようになったんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 今回、延伸します区間につきましては長年、市としても整備に向けて地権者の方と調整を行ってきた区間でございます。このたび根気強い交渉等によりまして、工事に着手できる見込みに至ったものでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 根気強い交渉、本当にありがとうございました。これで延伸できて、また道路の魅力が高まると思っております。

ただ、繰り返し申し上げますが、昔に比べると何か寂しくなったなあと思っております。けやき通りって何か私は朝倉市の特徴のある通りだと思っておりますので、活性化策はないのかなと考えております。確かに部長は建設課で道路を造るのがお仕事だとは思っているんですが、今、公務員の皆さんってまちが活性化するとかいうのは、それは民民の話だよと。民間が来る、来ないっていうのは自分たちの話ではないっていうような時代もあったと思いますけれども、いろんなコンサル業務とか、それから地域の浮揚であったりとか、そういった能力も公務員に求められるような時代になってきたと思っております。ですから、民民の話ではなく、まちおこしの視点でけやき通りの活性化策はないのかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） このけやき通り沿線の用途地域、これは先ほども申しましたが、第1種住居地域に指定しております。これは住宅の環境を守り、居住の誘導を図る地域としていただいております。ただ、住宅以外にも床面積3,000平方メートル以下の店舗や事業所は建てられるような地域でございまして。

今回延伸する路線のエリアにつきましては、この用途指定がない地域でございまして。現在、その周辺には住宅が建ち並んでいるため、現在のけやき通り沿線と同様に、住宅地として一体的に開発される可能性が高いというふうに思っているところでございまして。

市としまして、この地域に店舗等を積極的に誘導するという施策はなかなか難しいことではございますが、この道路が普及センター前交差点から南へ延びます——これは都市計画道路で言いますと東田柿原線というふうに申しますけれども、この道路とつながることで生活に必要な店舗等が進出することも考えられまして、当該地域一体が住宅地として居住しやすい地域となることを期待しているところでございまして。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 魅力ある住宅地のいろんな要素があると思うんですけれども、安心して暮らせる環境であったりとか生活の利便性、例えばスーパーや病院に近い、学校が近くにあるとか、こういった条件というのは甘木中学校があたりとか甘木公園もすぐ近くですし、そういった意味では条件がそろっているのかなあと。私はけやき通りの町並みの何か統一感とか、そういうのが物すごく好きなんです。

ですから、この統一感を生かして、けやき通りの個性をもっと伸ばしていただければというふうに思っておりますので、どうぞ——もちろん難しいというふうに言われて、それは民民の話ですから行政のやることではないかもしれませんが。だけれど、まちおこしとかまちづくり、それから人口減少に抗うとか、そういった切り口でぜひとも担当課としても頑張りたいというふうに思っております。

では、この質問は終わります。

次に、朝倉市は子育て世代にとって魅力あるまちかという質問に移らせていただきます。

ではまず、この質問をしようと思った背景といいますか、それを述べさせていただきます。人口減少に抗うために、朝倉市を子育てしやすいまちとしてアピールしたほうがいいのではないかとこのように思っております。

新聞の記事、これは2024年、去年の2月6日でちょっと古い新聞なんですけれど、「人口増 子育て・雇用が要」福津市、苅田町が上振れをしたということが書いてあります。やはり子育てと雇用、当たり前といえば当たり前なんですけれど、これが大事なんだなというのがあって子育てって大事だよなあと。

さっきの冒頭に読み上げました2025年の1月に掲示板のほうにQ&Aで挙げていました、夫、乳幼児2人の奥さんが書いているんだと思うんですけれど、これって何か朝倉市が来てほしい、これはマーケティング用語でペルソナって言うんですけれども、商品やサービスを利用する典型的な顧客像、それに当たるんじゃないかなあとと思いまして、あっと思っ

て夜ちょっと見つけまして御紹介をさせていただきました。その中でよく私が聞くのが「大刀洗町の保育料は無料だって聞いたけれども、本当か」ということを私、何回か質問を受けたことがあります。大刀洗町は子育てに熱心だもんかなあと。何となく私もそういうのはイメージとしては持っているんですが、朝倉市も負けずに若い子育て世帯への経済的支援が必要ではないかなあとと思って質問をさせていただきます。

まず、さっき冒頭に読みました大刀洗町、筑前町、それから朝倉市です。この人の掲示板に書いていた回答をちょっと読ませていただきます。若い人ってこうやって見ているんだなあと。でもよく見ているなと思って読ませていただきます。

朝倉市出身で今は大刀洗町に住んでいます。便利さで言うと、朝倉市の甘木イオン辺りが386号沿い、大刀洗町の菊池小学校区、筑前町の山隈辺りかなと思っています。便利さでいうとです。大刀洗町は今のところ好きな町です。燃えるごみ袋代が少し高いけれど、おむつ用のごみ袋は安いし、プラごみは地域のコミュニティセンターで無料で捨てられます。野菜の無人販売が畑の前にあって安く手に入ります。保育料がめちゃくちゃ安く——ここは私、後で質問させていただきます。

保育料がめちゃくちゃ安く、一番高所得の世帯でも0歳から2歳が3万円、さらに第2子は半額、2つの公園の遊具が新しくなり楽しいです。コストコ近いです。子育て支援が手厚く、支援センターは無料でたくさんイベントをしてくれます。産後ケアも充実しています。ただ、飲食店は少ないので、そこは甘木辺りのほうがいいかなと思います。あと下水道代が高いです。燃えるごみ袋が35リットルで変な形なので使いにくいです。その2つはデメリットに感じています。

車があれば大刀洗町は便利ですよ。ただし、菊池小学校区と本郷小学校区は水没の心配

はありませんが、他の校区は浸水の心配があるので、ハザードマップをよく見たほうがいいです。車があるなら、本郷地区のほうが家賃が安くて、車で10分ぐらい行けばイオン、コストコ、ドラッグストアなどに行けるのでお勧めです。車がないなら、甘木鉄道の山隈から今隈辺りかなと思いますと。

すみません。これはいろいろちょっと批判めいたことも書いてありますが、そのまま読ませていただきました。これは匿名の記事ですので、このまま御紹介するのはどうかなと思ったんですけれども、何か若い人の感覚がこんな感じなんだなあと思って紹介をさせていただきました。

そういった中で、先ほど言いました子育ての保育料が安いという部分なんですけれども、大刀洗町の分と朝倉市の分の保育料を比較してまいりました。（発言する者あり）すみません、準備が悪くて。

例えばなんですけれども、保育料のテーブルがありまして、まず大刀洗町はテーブルの所得割の区分が割かし細かいんですよ。朝倉市よりも数が細かいような気がします。それを全部一個一個比較するのは難しいですので、ちょっとモデルとして2つ御紹介をさせていただきます。

所得割課税額4万8,600円の世帯、これは所得割が4万8,600円というのは推定世帯年収でいくと330万円ぐらいです。ですから、若いお父さんがいて、お母さんが子育てしながら、多分2子、子どもが2人いるんだったら、そんなに仕事はがっつりできないでしょうから330万円ぐらいの世帯がいいかなと思って選びました。

朝倉市は第1子が2万8,000円、第2子が1万4,000円、合計4万2,000円です。大刀洗町、第1子が1万1,000円、第2子が5,500円、合計1万6,500円。4万2,000円と1万6,500円です。

次、所得割課税額が9万7,000円、これは推定世帯年収が470万円ぐらいです。私がイメージしたのは、割かし今、晩婚化が進んでいますので、ある程度お年を召されてしっかりした仕事、女の方もきちんとキャリアを積んだような人が働いている世帯で470万円ぐらいの年収の方を想定してみました。これを調べますと、この470万円の年収の世帯で保育料は、朝倉市は第1子が3万6,000円、第2子が1万8,000円、合計5万4,000円。そして、大刀洗町だと1万9,000円と9,500円、合計2万8,500円です。

先ほど言いましたように、4万2,000円と1万6,500円、5万4,000円と2万8,500円、ほぼほぼ半分以下の金額で大刀洗町の保育料は賄えます。

さっき下水道料がちょっと高いですというのが出ていましたけれど、下水道料は朝倉市と大刀洗町は計算の仕方がちょっと違うんですけれども、そんなに変わらないのかなと、モデルでしますと。ただ、保育料は安いんです。朝倉市だけが高いのかなと思ひまして、筑前町を比較してみました。筑前町は朝倉市とほぼほぼ一緒です。筑前のほうがどちらかというとちょっと高いぐらいあります。

そこで私、思ったのが、大刀洗町って戦略的に安くしているんです。もう意図的に安くしているんだと思います。そうしないと、こんなに安くならないし、この中にもありますように、大刀洗町の独自の軽減制度としてというのがあります。これを見たら、若い頃ってやっぱりお金ないと思うんですよね。お金ない人が、片や4万2,000円、片や1万6,000円、朝倉市に住めって言ってもそれは僕は無理だと思います。だから、私は戦略的に1万6,000円に、同じテーブルにのって勝負するのか、それか別の何か、安くはないけど、朝倉市に行ったら高いけど、こういった付加価値があるよって、これのどちらかで勝負しないといけないなと思っているんですが、まず、お尋ねいたします。

朝倉市、高いですけども、保育については何か特徴的な魅力ってありますでしょうか。1万6,500円で済むところを4万2,000円いって、朝倉市のほうが、行ったほうがいいのかというような魅力はありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 保育料につきましては、令和元年10月から子ども・子育て支援法の一部を改正する法律により、保育所等を利用する3歳から5歳までの全ての子どもの保育料が無償化されました。そのため、現在保育料を支払っているのは3歳未満の児童となります。

朝倉市の保育料は、国の定める基準よりも低く設定はしておりますが、先ほど議員がおっしゃいましたように、大刀洗町の保育料と比較すると大刀洗町のほうが低いという状況ではございます。

人口減少・少子化対策として、子育て支援は重要であることは十分認識しておりまして、子育て世代に必要な支援策については、子ども・子育て戦略会議を設置しまして、母子保健や保育、医療、教育等の各分野と連携・協議を行いながら、引き続き調査研究を行ってまいりたいと思っております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 一度、大刀洗と同じように金額を下げましたらば、もう絶対、やっぱり上げますということはできないと思います。そこには財源が必要ですので、そこで、価格で勝負をするのかどうかという判断が求められると思うんですが、ただ、大刀洗町は戦略的にそういうふうに行っていると。先ほど言った、乳幼児が2人いるような世帯に来てもらうというのは、保育料の部分だけ見ると難しいのかなと私は思うんですが、このときの、その同じ土俵にのる、のらない、私はのれというようなことを、ちょっと言っているのかもしれませんが、この点について、総務部長、副市長、どのようにお考えになりますか。検討されますか、それともそれは無理な話でしょうか。お尋ねします。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 保育所の無償化とか、また減免とかについては、10年以上前も検討した経緯がございます。ただ、それを実現するためには、今よりもかなり財源を要

する、年額で3,000万円、4,000万円、財源を要するようなことになりますので、そちらのほうも比較検討しながら考えなければなりませんので、やりたいことはやりたい、それはもう本当に好ましいことだろうと思いますけれども、実現することが、そういうふうなところが難しいところかと考えるところです。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 大刀洗町さんが、そうやって子育ての、特にこういう分野に、無料化に近いようなことをされていますけれども、確かに狙いとして、非常にいい狙いだと思っています。そういう、子どもが幼い時期にそこに住む、そして一番、家を建てる時期、多分、小学校に上がるぐらいに一回考えるんだと思いますけれども、そういった時期にひとつ、そこにいるということが非常にインセンティブが働くのかなと思っています。

いろいろ調べますと、大刀洗町さん、公立保育所がゼロです。いろんな施策を打つ中で、こういうふうにシフトされたんだと思いますが、今、一気に、市のほうでは同じように、じゃあ、やると。いろんな分野で無料にしているところ、いろんなことがあるかと思います。全てそれに負ける、負けないということではなくて、トータルコーディネートの中でやっていくべきだろうというふうに思っておりますし、仮にこれを実現するにしても、先ほど総務部長申し上げましたように、少し時間がかかるのかなと思います。ただ、いろんなことで検討はしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 責任ある部長、責任ある副市長として、軽々しいことは言えないと思っております。私も責任ある議員として、すぐ財源の当てもないのに下げなさいと、同じことをやりなさいというのは、それは無謀なのかなと思っています。

ただ、競争は熾烈ですので、やはり頑張っていかないと、なかなか勝てないのかなと思いますので、こういった事実があるということを御紹介いたしまして、これはひょっとしたら一つの断面だけを見て、尻尾だけ触ってゾウ全体を見ていないのかもしれないけれども、でも、それに魅力を感じていく人たちも多分いるのも事実でございます。

私、自宅が本郷の駅に近いんですけれども、本郷の駅の周りって、やっぱり家が、確かに、もうあっという間に建ったねというぐらい建っておりますので、そこら辺のところはどうぞ御検討いただいて、地域間競争に負けないようにお願いいたします。

では、続きの質問をさせていただきます。

まず、子育てほっとサロン、つどいの広場というのに、この前行かせていただきまして、非常にいいところだなと思っています。ここはあんまり目立たない、周知されていないんじゃないかなと思っていますんですが、子育て支援の朝倉市の施設としまして大事なしたいというふうに思っているんですが、開所日と利用状況をお尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 子育てほっとサロン「つどいの広場」、これは子育て中

の親子の交流の場づくりや子育てについての相談支援等を目的とした事業でございます。平成19年度から、旧老人福祉センター寿楽荘を活用して実施しております。開所日は月曜日から金曜日及び第2・第4日曜日、開所時間は10時から15時まででございます。利用状況でございますが、令和5年度は延べ6,007人、令和6年度は延べ6,496の方が利用いただいております。また、日曜日の利用者数は平均で50人、多い日は84人の方に御利用いただいております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 6,000人超の方が利用していただいているということで、非常にびっくりしているんですけども、ただ、私は、場所がちょっと分かりづらいんじゃないかなと思っております。特に行き道に看板とかも出ていませんし、ひっそりとあるというようなイメージなんですけれども、場所が分かりづらいんじゃないでしょうか。対策はどうしていますでしょうか。私は、何かもっと看板を立てたりとか、そういったことをすべきだと、もっと周知徹底して、あんなにいい施設だから使ってもらうべきだと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 場所が分かりづらいという点での対策ですが、毎月発行している、つどいの広場通信に地図を掲載して配布しております。また、SNS等を活用した情報発信のほか、健康課が新たに令和6年度から実施しております、母子手帳アプリ「母子モ」を活用し、周知を行っております。看板につきましては、必要性も含めて、今後、考えてまいりたいと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私は非常にいいところだなと、外で外遊びもできるし、広々としているし、もっともっと利用して、こんないいところが若いお母さんたちに知られたらいいなと考えております。利用者が6,000人を超えて、市民のニーズも高いんじゃないかなと思っております。もっと人が増えるように、徐々に開所日を増やすような計画、極端に言うとも365日開いていますとか、これが朝倉市の魅力を高めるんじゃないかと思いますが、市長、このつどいの広場の活用について、もっと積極的にすることはできませんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） つどいの広場についての御質問でございました。非常に分かりにくいという反面、行かれましたから、非常にいいところですよ、静かなところで。都会にあるこの手の施設と違って、非常に自然環境がよろしいと、建物も令和5年度、令和6年度できれいにいたしました。そして、前の広場が、これがまた子どもが遊ぶのに非常に適しているということでございます。

そこで、お尋ねの開所日を増やすということについては、利用者の要望も確かにあると

いうふうに聞いています。こういったことを踏まえて、その方向で今から検討するという
ことで原課は考えておるところでございます。

ただ、委託をしています、これは民間保育園ですけれど、社福の保育園ですけれども、
人材がなかなか確保しにくいというようなこと等がありまして、こういった課題をクリア
しながら、議員が求められております開所日を増やすと、そしてさらに利用者を増やして
いくということについては、しっかり検討しながら取り組んでいきたいというふうに思い
ます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 先ほど保育料を安くしろみたいなことを言いましたけど、コスト
といいますか、値段だけではなくて、朝倉市にはこういった遊べる、ただで遊べる施設が
あるよと、そういったのって若いお母さんたちとかは敏感で、ロコミとかですぐ広まると
思いますので、ぜひとも大事にしていっていただいて、何というんですか、自然あふれる、
本当にいいところですので、生かしていただきたいと思っております。

最後、もう2分ぐらいになってしまいますけど、じゃあ、最後に1つだけ、子ども家庭
センターというのが、今度、新庁舎にできるというふうに、施政方針の中にもあったん
ですけども、ここってやはり女性が行くところですので、女性の職員の視点というのが生か
されているかというのが私は大事だと思っております。何やかんや言っても、市役所とい
うのは男性が——意見が大多数でしょうから、この女性視点というのは生かされていま
すでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 新庁舎では、子ども家庭センターを設置するための担当
部署として、子ども未来課、健康課になりますが、子ども未来課と健康課は同じフロアで
隣り合わせとなります。子ども家庭センターはその一角に執務室を設け、相談員や保育士、
保健師などの専門職が、常に情報共有や協議ができるようになっております。

また、近くには、授乳もできる相談室やキッズコーナーを設けており、子どもを遊ばせ
ながら保護者が安心して相談や手続などができる環境を整える予定としております。以上
でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 世の中の半分は女性で半分が男、当たり前ですけども、やはりこ
の女性の視点というのは、これから時代の要請で、ますます必要になっていくと思いま
すので、どうぞ行政の施策の中にも、その女性の視点というのを生かしていただきたいとい
うふうに考えております。

以上で、私の質問は終わりたいと思います。申し訳ないんですが、時間が足りませんで
したので、空き家対策につきましては、次の議会、9月の議会で質問させていただきたい
と思います。これで終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。午後 2 時15分に再開いたします。

午後 1 時59分休憩